

三者面談

■ ねらい

三者面談の際の留意点について事例を通して研修し、保護者と子どもの声を受け止め、具体的な行動目標を設定する方法を三者で確認するスキルを身につける。
ア 座り方 イ 聴き方「傾聴」「受容」「共感」 ウ 伝え方
エ 援助の仕方 オ コーディネーターとしての役割

■ 研修時間

50分～90分（本プログラムは70分で記述、適宜時間を調整して実施）

■ 準備物等

資料①～③、付箋紙

■ グループのつくり方

6人グループを基本、グループ毎に輪になって着席

■ 流れ（70分）

1 アイスブレイク

（10分）

グループ分けを兼ねてバースデイチェーン（無言で誕生日順に並ぶゲーム）を行います。別のゲームでもよいし、時間の都合で省略することも可能です。

2 導入

（5分）

本日の研修のねらいとすすめ方について確認します。事例についての意見を出したりロールプレイしたりすることについて、積極的な参加を促します。

3 活動①

（15分）

グループ毎に、これまでの三者面談について、保護者に対する対応の面での成功事例やうまくいかなかった事例を取り上げ、意見を出し合います。次に、全体の場でその事例を発表します。その後、資料①を使って、三者面談で注意する基本的なポイントについて説明します。

4 活動②

（20分）

グループ毎に、資料②の事例からどちらかを選び（オリジナルも可）、上記のねらいにあるア～オに視点を置いてロールプレイしてもらいます。その後、感想を基にして、対応の仕方について意見交流します。

5 全体での分かち合い

（10分）

研修全体を通して感じたこと、気づいたことを全体で分かち合います。

6 まとめ

（10分）

本日の研修をまとめます。その際、教育センターで調査した上手くいった事例をもとに、保護者に対する基本的姿勢について考えます。

■ 研修過程

	研修活動	留意点	準備物等	形態	時間
アイスブレイク	1 バースデイチェーンでグループを分ける。 (1) 無言で誕生日順に並ぶ (2) 答合わせ (3) グループ分け (4) 振り返り	○制限時間は人数に応じて設定する。 (40人ほどで5分ぐらいが適当) ○ファシリテーターが気付いたことや感じたことを受講者にコメントする。		一斉	10
導入	2 ねらいと進め方を説明する。	○意見交流やロールプレイについて簡単に説明する。 ○研修の成果を上げるために積極的な参加を促す。		一斉	5
活動①	3 これまでの失敗事例や成功事例を取り上げ意見交換する。 (1) 経験の中から事例を出し合い問題点を明らかにする。 ・事前準備の必要性 ・聴き方、伝え方 ・教師の姿勢、態度、考え方 (2) 三者面談で注意する基本的なポイントについて資料①を使って確認する。	○できるだけ自由に出させる方がよいが、出にくい場合は左のようないくつかの項目を提示する。 ○グループで取り上げた内容を全体の場で発表する。 ○活動②につなげるための内容として、軽く触れる程度にする。	資料①	グループ 一斉	15
活動②	4 グループ毎に一つの事例を選択して、よりよい対応の仕方を考える。 (1) 選択した事例について共通理解する。(より詳細な検討) (2) ロールプレイのシナリオを付箋紙を使って考える。 (3) 各グループでロールプレイによる実践をする。 (4) 観察者から意見交流を通して振り返りをする。 ・座り方 ・聴き方 ・伝え方、伝える内容 ・援助の仕方 ・コーディネーターの役割	○事前の準備、目的、教師の姿勢・態度を考えさせる。 ○出迎えて本題に入る前までのやりとりや終わった後の挨拶についても考えさせる。 ○保護者の思いや予想される反応について考えさせる。 ○保護者役、教師役、生徒役を決めロールプレイ(3分間)を各グループで行わせる。 ○観察者から左の視点に応じて気づいたことを言ってもらい協議をさせる。(理由も必ず添えて)	資料② 付箋紙 ベル(合図)	グループ	20
全体での分かち合い	5 研修全体を通して、感じたこと、気付いたことを話し合う。 ・日頃の対応 ・共感的な態度 ・子どもを通しての信頼関係など	○各グループよりロールプレイで分かったこと、どのような対応が必要か等を発表させる。 ○ファシリテーターが指名して1～2名に発表させる。		一斉	10
まとめ	6 研修のまとめをする。 (1) 事例の対応例(模範例)の説明をする。 (2) 研修のまとめと活動全体を通して、ファシリテーターが感じたことを話す。 ・保護者対応の基本的な姿勢や考え方	○事例についてセンターのうまくいった事例を参考に説明する。	資料③	一斉	10

ファシリテーターの進行例【三者面談】

1 アイスブレイク

(10分)

○ バースデイチェーンでグループ分け (時間の都合で省略することも可)

(1) 無言で誕生日順に並ぶ (2) 答合わせ (3) グループ分け

まず最初に、グループ分けをします。一言も言わず、誕生日順に並んでください。1月1日に近い人から、教室の周りに大きな輪を作ってください。今から5分以内でお願いします。どうぞ！



それでは、答合わせを行います。最初の人から誕生日を言ってください。……全員正解でした。拍手！ それでは、最初の人から6人ごとにA班、B班として席についてください。

POINT 1

ここでは、アイスブレイクをしながら、グループ分けをするという形で「バースデイチェーン」を使いましたが、時間がない場合は、あらかじめグループを作って、②から始めてもかまいません。その時は、学年毎に班を作るなどグループ分けを工夫します。

POINT 2

答合わせでは、全員が正解の場合は、「さすがですね・・・」と、間違っている方も「間違いは1人だけでした」と褒める方がよいでしょう。

誕生日が研修日当日あるいは同じ週の場合、拍手で祝福するのもいいでしょう。

(4) バースデイチェーンの振り返り (ファシリテーターからのコメント)



バースデイチェーンで、グループ分けをしましたが、ここで気づいたことや感じたことを話したいと思います。……

POINT

本来なら、「振り返り」で、受講者の気づきを、グループで話し合い、全員で分かち合う活動を行うのが効果的ですが、今回は、本活動が中心ではないので省略します。

しかし、ファシリテーターからコメントすることで単なるゲームで終わらないようにします。

2 導入（三者面談の基本的ポイント）

（5分）

(1) 研修のねらいと進め方の説明



今日は、保護者との信頼関係を高めるため、「三者面談」について研修します。

話し合い、演習を通して、三者面談における保護者への対応において必要なことをみんなで考えていきましょう。

三者面談のあり方について、ロールプレイを通して考えてもらい、その後、全体で話し合っていきます。

POINT 1

この研修内容は、教育センターの調査研究で集めた、保護者との人間関係が上手く行っている県内の先生方の事例を参考に作ったものです。それを前提に進めましょう。

POINT 2

この研修では、本校の実態には深入りせず、一般的な三者面談のあり方について研修します。特に面談者に解決への方向づけを行うための教師の対応の仕方が大きな鍵を握ります。

本研修では、三者面談の在り方を中心に研修し、教師の保護者に対する対応の在り方を見直す一つのきっかけとなればと考えています。

3 活動①（三者面談に関する意見交流）

（15分）

(1) 三者面談に関して、うまくいった事例や失敗した事例の交流

POINT

ここでは、受講者の先生方の経験を自由に出し合い、研修への意欲を高めるようにしましょう。ただし、時間の関係上、事例への深入りはしないようにしましょう。

グループで、各自がこれまで三者面談におい
て失敗した
事例や出来
事などを話
さないこと
でお願いします。

次に、各グループで代表者が全体で発表してください。



(2) 三者面談の基本的なポイントの説明（資料①の配布）



この資料は、教育センターが県内の先生方に聞き取りしたものを作成しました。資料には、三者面談で注意する基本的なポイントが書いてあります。

① 話しやすいように座席を配置する
② 「傾聴」「受容」「共感」を心がけて聴く
③ 親と子の考えの調整を図る
④ 援助について具体的に示す

先生方、いかがでしょうか。他にも考えられると思いますが、今からの活動の参考にしてください。

POINT

ここでは、内容の深入りはせず、確認程度にとどめ、今からの活動の参考にしてもらうことを伝えます。他にも考えられますが、ここでは触れないようにします。

4 活動②（事例にもとづいたロールプレイ） (20分)

(1) 事例の選択・理解 (2) ロールプレイ

では、選択した事例について、ロールプレイしてもらいます。

グループの中で、教師役、保護者役、生徒役を決めて面談を行います。残りの方は、よく観察しててください。あとで気づいたことを、発表してもらいます。



まず、各グループで事例Ⅰ・事例Ⅱのどちらかを選択し、内容を全員で共通理解しましょう。さらに、保護者の気持ち予想して、付箋を使って設定を付加してみよう。

POINT

ロールプレイする事例については、与えられたもの以外を用いてもよいと思います。

事例の理解については、保護者の立場に立って思いや予想される反応を確認したあと、実際に演じてみます。

3分間で演じるようにします。

(3) グループ内での分かち合い



今のロールプレイについて、グループ内で振り返ってみましょう。役を演じた方はその感想、観察した方は、ロールプレイを見て感じたことや気づいたことを出し合ってみてください。

その際、よかった点、改善点などを話し合いますが、「その対応はおかしいよ」といった否定的な言い方はしないようにしてください。「私なら〜する」といった、提案型の発言にしましょう。

POINT

発表させる際には、まず、保護者役が保護者の立場でどう感じたか、次に生徒役、それを受けて、教師役が反省点を述べ、最後に観察者が指摘する順番がよいと思います。観察者の指摘は、批判にならないように注意しましょう。

5 全体での分かち合い

(10分)

(1) 研修全体を通しての感想



各グループから、今日の研修を通して、感じたことや気付いたことを簡単に発表してもらいます。Aグループからどうぞ。

(1) グループからの活動の発表

①扱った事例、②どのようなことを話し合ったか、③どのような対応が必要かなどわかったことを発表する。

(2) 全体を通しての感想

ファシリテーターより、1～2名を指名して、ロールプレイを行って感じたこと、気づいたことを発表してもらう。

POINT

他のグループからの発表の中に新たな気づきがある場合があります。ファシリテーターは、受容的・共感的態度で発表を聴き、発表内容を取り上げることで全員へ浸透させることも必要です。また、発表者には、感謝の意を込めて、お礼のことばを述べるようにします。

6 まとめ

(10分)

(1) 2事例の対応のポイント説明

三者面談の対応のポイントについて資料を配布します。先生方が考えられたものと比較して（どうだったか見比べて）みてください。



POINT

2つの事例についてのポイントの説明については、重要なものと受講者の発表の中になかったものを中心に行いましょう。

(2) ファシリテーターからのコメント

今日の研修で、私が気づいたことや感
じたことをお話しし
ます。



POINT

ここでは、ファシリテーターをやってみての感想や研修全体の雰囲気などについて話してみましょう。

また、まとめとして受講者のまとめたものをもとに、保護者との信頼関係を高めていくためには、今日の研修のように、保護者の立場に立って対応することや、準備を十分にし適切な資料を提示することが大切であることをなどを伝えましょう。

○三者面談に必要なスキル

- ・座り方 … 保護者、子ども、教師のそれぞれの表情が見え意見を述べやすい状態。
教師と他の二者が対面もしくは三角形の配置が考えられる。
- ・聴き方 … 教師が必要事項を述べるだけでなく、聞き上手になることが大切である。「傾聴」「受容」「共感」を心がける。
- ・伝え方 … 保護者あるいは子どもの一方の側で話さず、言葉になりにくい子どもの気持ちを保護者に伝え、保護者の気持ちを子どもに分かるように伝える。
- ・援助の仕方 … 課題を解決したいという保護者や子どもの気持ちを引き出し、自らのリソース(資質、能力、持ち味)の中にその糸口があることに気づかせる。
子どもが自立のステップを上れるように、保護者や子ども自身に対して具体的な情報を提供する。

○面談の際の留意点

- ・学校での言動について子どものよいところを認め、保護者に伝えるようにする。
- ・保護者の子育てに対して敬意を表し、その労苦をねぎらうようにする。
- ・面談内容については、保護者の理解がない限り秘密を厳守する。
- ・保護者のプライバシーに関することは、こちらからは立ち入らず発言を待つようにする。

○進路に関する面談の留意点

- ・生徒の希望やそれに対する保護者の考えを十分に聴き把握する。
- ・生徒に自己決定を促し、そのために援助することを伝える。
- ・現状把握や目標設定に将来に対する見通しを持たせ、希望を失うことなく勉学に取り組めるようにする。

事例Ⅰ 進路について保護者と子どもの意見がくいちがうときの面談

- 子 … 自分の学力ではA高校には合格できないと思っているし、もともと行きたい学校ではない。それより、親友の〇〇君と一緒にB高校で得意なサッカーの技術を伸ばしたい。高校卒業後の進路については、部活動を引退したあとに考える。
- 親 … 合格できないという判断をするほど日頃から勉強に取り組んでいない。高校卒業後の大学進学のことを考えると、B高校よりA高校の方が有利である。友達と一緒に行きたいという考えだけで高校を決めて欲しくない。

事例Ⅱ 学校で問題行動を起こした子どもへの生徒指導的な内容の面談

- 子 … 友達が多い方ではなく悩みを相談することもない。最近、周りから自分が孤立しているような気がしており、勉強も手につかずいらいらしてつい問題行動を起こしてしまった。
- 親 … 夜まで仕事をしているので、子どもの様子はすべてはわからない。話をするたびに、学校ではちゃんとやっているというので子どもを信頼していた。これまで何の問題もなかったのに、今回こんなことになってどうしてよいかわからない。

○事例Ⅰの場合の三者面談の留意点

- ・ 事前に子どもとの二者面談をし、思いや考えを聞いたりその内容について保護者との程度話しているかを確認したりして、懇談時の話の展開を予測しておく。
- ・ 子どもとの二者面談の内容を踏まえて、子どもが保護者に対して言いにくいことを場合によっては代弁する。
- ・ 事前の調査により親の考えをきちんととらえておき、わかりやすく言い換えるなどして子どもに伝えることを心がける。
- ・ ケースによっては、学校と保護者が、子どもの問題解決について同じ指摘をするように連携をする。
- ・ 進路に関しては子どもと保護者が最終決定をしなければならない。そのためのアドバイスについては、具体的なデータを見せながらわかりやすく説明する。
- ・ 様子を聴いたり情報を与えたりといった内容のみのやりとりだけでなく、子どもと保護者の気持ちを酌み取って話をする。
- ・ 子どもの思いを教師が代弁して保護者に提示し、そのことに関する保護者の考えを聴くことで子どもへの指導方針が明らかになり、連携を図る糸口が見いだせる。
- ・ 保護者と子どものそれぞれの考えを尊重するとともに、方向性を持たせた話の展開の中で、双方の共通点を引き出すように心がける。
- ・ 学校での勉強や生活の話題については、まず子どもに自分の考えを発言させ、家庭とかかわる部分について保護者に発言を求めるようにする。
- ・ 子どもと保護者に考えの食い違いがあり、面談で解決の方向性が見いだせない場合は、問題点を明らかにした上で、当日来校していない家族を含めて家庭で再度話をするように促すことも一つの方法である。
- ・ 面談では保護者や子どもの意見を聴くことが主な内容となるので、教師は提供する情報を整理して要領よく伝えるようにし、聴き役に徹することを心がける。

○事例Ⅱの場合の三者面談の留意点

- ・ 事前連絡により懇談の内容を知らせることで、保護者が話す内容や聞きたい点を考えてもらうなど不安感を与えないようにする。
- ・ 日頃から、学校での子どもの様子や保護者へのメッセージを発信するように努め、教師や学校に対して信頼を得るように心がける。そのことが、積極的な連携・協力を促すことにつながる。
- ・ 生徒指導に関する内容を話題にするときには、事前に子どもとの話に十分時間をかけた上で保護者との面談に臨むようにする。
- ・ 子どもの学校生活を改善するために情報を与えるときには、伝える分量や割合を考慮する必要がある。いいところを6～7割、課題を3～4割話すように心がける。
- ・ 保護者の話を聴きながら頷いたり相づちを打ったりして、子どもの指導に対しての不安を全面的に受け止めるようにする。
- ・ 子どもが悩んでいる解決すべき課題について、保護者の考えを聴く。その後、学校の方針を伝え、子どものよりよい成長を願って連携・協力の依頼をする。
- ・ 子どもの教育に対して責任を持つべき保護者としての親の立場、子どもの成長に関して全面的に支援する教師としての立場を明らかにして連携を依頼する。
- ・ 課題のある子どもに対する面談では、不十分な点を指摘するだけで終わらないように留意する。解決の方向性を示し、最後に安心感を与える言葉でしめくくるようにする。
- ・ 保護者とだけ話すべき内容がある場合には、その場で話さず後日に時間を作るか又は家庭訪問を設定し二者面談を行う。